

現代美術館だより

22

今月は展示室以外の場所にある2つの作品を紹介いたします。
また、修理のため閉鎖していた「ハンス・オブ・デ・ビーク」の展示室を12月3日より再開しますので、どうぞご覧ください。

作品介绍 ⑭

無題

※マイケル・リンの作品は題名がありません。

マイケル・リン作

現代美術館にある休憩スペースの床には、カラフルなデザインが広がっています。これは作品の一つで、作家は台湾出身のマイケル・リン（1964年生まれ）です。

リンは日常で使われるテキスタイル

（織物）から取った伝統的な花模様を壁や床に描いた作品で知られています。テニスコートやショッピングモールなど公共空間でのプロジェクトをたくさん手掛けており、日本では金沢21世紀美術館の市民ギャラリーの壁面に加賀友禅をモチーフにした作品があります。

本作品は、南部裂織から着想を得たという花模様のカラージュを描きました。壁との間に少し隙間を作ることで、作品を絨毯のように浮かび上がらせ、訪れた人が自宅できつろげるよう



な空間を作り出しています。リンはアートは親しみやすい環境の中で、日々の生活とともに存在すると考えており、作品には観客の存在によって完成するという意味が込められています。

休憩スペースは入館料無料で利用できます。官庁街通りの散歩のついでに、現代美術館のオリジナルグッズのショッピング、カフェでのエスプレッソを楽しむながらひとときを過ごしてみませんか。

作品介绍 ⑮

「いろいろりどりのかけら」

高橋 匡太作

現代美術館にある22作品のうち、唯一「時間限定」で見られない作品があります。それが、京都府出身の高橋匡太（1969年生まれ）による照明作品「いろいろりどりのかけら」です。

高橋は「光のアーティスト」として知られ、これまで京都府の二条城や、東京青山の国連大学などでさまざまな光を使ったプロジェクトを行ってきました。

現代美術館の白い外壁は、日没から午後9時までの間、色とりどりに映し出され、全く異なる風景に変貌します（休館日を除く）。壁面に直接照射された光は、時間とともにドラマチックに変化し、幻想的で美しい世界を作り出します。照射のプログラムは四季によって変更するので、四季折々に色の変化を楽しむことができます。

12月は日没が早いので、高橋の作



いろいろりどりのかけら

品と常設展の他の作品を同時に堪能できます。ほかの常設展の作品も、夜の照明を浴びて新たな姿を現します。どうぞ「夜の現代美術館」もお楽しみください。

問い合わせ先

現代美術館 (☎20-11127)